

ミサ聖祭

聖書にもとづく「言葉」と「所作」

(補足資料 23.6.21)

1 十字架のしるし

司祭 父と子と聖霊のみ名によって

(父と子と聖霊に結ばれて、主のみ名を呼び求めることは礼拝を意味し、祈りと生贄いけにえに、結び付けられる。)

会衆 アーメン

(確認的同意)

2 あいさつ

司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

(「二人または三人がわたしの名によって集まるところに、わたしがその中にいる (マタイ 18:20)。」典礼共同体の真ん中のいつもイエスがおられる。)

会衆 またあなたとともに。

(ここで言われている「あなた」とは、司式司祭と会衆の相互関係における神の現存の確認といえよう。ラテン語の原文では、「あなたの霊と共に」となっており、司祭は、聖霊によって司祭職を遂行できるので、まさに司祭はもう一人のキリストと言えよう。)

3 回心の祈り

司祭 皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願いましょう。

一同 全能の神と、

兄弟姉妹の皆さんに告白します。

わたしは、思い、ことば、行い、怠りによってたびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟姉妹の皆さん、
罪つみよか深いわたしのために神に祈ってください。

(改心が回心になったのは、ギリシャ語の *metanoia* が、自己中心から神に向う根本的に考え方と生き方の姿勢転換だからである。また、信仰者が、いつくしみ深い神のみ前で自らの不完全さ、犯した罪の自覚は大切である。)

司祭 全能の神、いつくしみよか深い父がわたしたちの罪をゆるし、永遠の命に導いてくださいますように。

(司祭は、主から聖霊において罪を赦す権能をいただいている〔ヨハネ 20:22-23 参照〕)。

会衆 アーメン。

4 いつくしみの賛歌 (キリエ)

(いつくしみの意味 聖書は、神のいつくしみを願い求めて叫ぶ罪人の祈りを伝えている (詩編 51:3-6a 参照)。また、神のいつくしみは、放蕩息子のたとえ話で伝えられている。さらに、愛する人々のためにも、神のいつくしみを願う (マタイ 15:22 参照)。

5 栄光の賛歌

天には神に栄光、
地にはみ心にかなう人に平和。
神なる主、天の王、全能の神よ。
わたしたちは主をほめ、主をたたえ、
主を拝み、主をあがめ、
主の大なる栄光のゆえに感謝をささげます。
主なる御ひとり子イエス・キリストよ、
神なる主、神の小羊、父のみ子よ、
世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く主よ、わたしたちの願いを聞き入れてください。
父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。
ただひとり聖なるかた、すべてを超える唯一の主、
イエス・キリストよ、
聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

(今や、典礼の調子は、悲しみの回心から、喜びにあふれた賛美へと展開する (ルカ 2:14)。この第一幕で、イエスは「主なる御ひとり子」と呼ばれ、第二幕では「神の小羊」と呼びかけ、第三幕では「父の右に座しておられる主よ」と、賛美するように^{うやうや}恭しくわたしたちを導かれる (マルコ 16:19; 詩編 110:1; ヘブライ 1:13)。

5 集会祈願

司祭 祈りましょう。

(一同は、司祭とともにしばらく沈黙のうちに祈る。)

司祭 祈りましょう。(一同は、司祭とともにしばらく沈黙のうちに祈る。)

(1の追加説明。「み名」：聖書において、名前は、ある人物の本質を神秘的に表し、その人物が持つ力を帯びている。従って、神のみ名を呼び求めることは、その臨在りんざいと力とを願い求めることになる。)

ことばの典礼

7 第一朗読

(使徒言行録が朗読される復活節を除いて)旧約聖書が選ばれる。これらの朗読は、通常、その日の福音書に関連している。)

(朗読の終わりを示すために、朗読者は手を合わせてはっきりと唱える。)

朗読者 神のみことば

一同 神に感謝

8 答唱詩編

9 第二朗読 (第一朗読と同じように行われる。)

10 アレルヤ唱 (詠唱)

(一同は起立して、典礼季節に応じて、アレルヤ唱または詠唱を歌う。)

11 福音朗読

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。(福音である主に対して。マルコ 1.1 参照)

司祭 OOO による福音。(会衆は、司祭と共に、額ひたい、口、胸に十字のしるしをして、はっきりと唱える。ローマ 10:8b-10 参照。わたしたちの思い、言葉、行いを主にささげ、福音書におられる主の言葉が、わたしたちの知性と口の上に、また心の中にあるように願う。)

会衆 主に栄光

司祭 主のみことば。

一同 キリストに賛美。

12 説教（みことばと生き方の橋渡し。）

13 信仰宣言

使徒信条

天地の創造主、

全能の父である神を信じます。

父のひとり子。わたしたちの主

イエス・キリストを信じます。

（以下、〔おとめマリアから生まれ〕まで、一同は礼をする。）

主は聖霊によってやどり、

おとめマリアから生まれ、

ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、

十字架につけられて死に、葬られ、

隠府に下り、

三日目に死者のうちから復活し、

天に昇って、

全能の父である神の右の座に着き、

生者と死者と裁くために来られます。（キリストは栄光のうちに再びこられる。キリストはすでに教会を通して治められる。イエスは、預言者たちや洗礼者ヨハネに続いて、説教の中で最期の審判を予告された（マタイ 25:40 参照）。イエスは永遠のいのちの主である。人間の行為と心とを最終的に裁く至上権は、世のあがない主であるキリストにのみ属す。）

聖霊を信じ、

聖なる普遍の教会、

聖徒の交わり（教会とはすべての聖徒たち交わり〔諸聖人の通交〕である。だから霊的善の分かち合い、また霊的賜物（カリスマ）をも分かち合う。さらに、天上の教会と地上の教会との交わりを体験できる。）

罪のゆるし、からだの復活、（死後、不滅の靈魂が存続するだけでなく、からだも生き返るのである。）

永遠のいのちを信じます。（「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです（ヨハネ 17:3)）」

アーメン。

(意向は通常、次の順序で唱える。①教会の必要のため、②国政にたずさわる人々と全世界の救いのため、③困難に悩む人々のため、④現地の共同体のため。) 司祭が唱える祈りの結びには、はっきりと唱える。

会衆 アーメン。

感謝の典礼

供え物の準備

15 祭壇の準備

ことばの典礼が終わると奉納の歌が始まる。その間、奉仕者が必要なものを祭壇に準備する。+

16 奉納行列

信者の代表はパンとぶどう酒、また、教会と貧しい人を助けるためのその他の供えものを運ぶ。

17 パンとぶどう酒を供える祈り

司祭 神よ、あなたは万物の造り主。

ここに供えるパンはあなたからいただいたもの、
大地の恵み、労働の^{みの}笑り、
わたしたちのいのちの^{かて}糧となるものです。

会衆 神よ、あなたは^{ばんぶつ}万物の^{ぬし}つくり主。

18 献香

(集屋・神殿のいけにえ 行司にて)

19 清め

詩 141:2 出エジプト 30:37 ルカ 1:9-10)

20 祈りへの招き

司祭 皆さん、ともにささげるこのいけにえを、

全能の父である神が受け入れてくださるよう祈りましょう。

(生贄：^{いけにえ}イスラエルでは、①神への感謝、②神との交わり、③罪の贖いとして。律法によって厳密に規定されていた。)

会衆は立って答える。

会衆 神の栄光と賛美のため、
またわたちと全教会のために、
あなたの手を通しておささげするいけにえを、
神が受け入れてくださいますように。
一同はその後、しばらく沈黙のうちに祈る。

21 奉納祈願

司祭

会衆 アーメン。

奉献文（エウカリスティアの祈り）

司祭 主は皆さんとともに

会衆 またあなたとともに。

司祭 心をこめて。

会衆 神を仰ぎ、

司祭 賛美と感謝をささげましょう。

会衆 それは尊い大切な務めです。

22 叙唱（^{じょ}司祭が「神の前で」、「会衆の前に」立って「述べる」のである。つまり、奉献文の本質的な部分と言えよう。）

23 感謝の賛歌（サンクトゥス）

一同 聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天には神にホザンナ。

主の名によって来られるかたに賛美。

天には神にホザンナ。

〔旧約では、預言者イザヤのいとも神秘的な体験があった（イザヤ 6:1-4）。
新約では、ヨハネが天使たち共に歌った（黙示 4:8）。ホザンナは、わたしたち
を救ってくださいを意味するヘブライ語の音訳〕